

① 「エコパーク」とは何かを端的に説明している語句を、記事から抜き出しましょう。

自然と人の共生を図る生物圏保存地域

② エコパーク登録につながった要素を四つ、端的に記事の前半部から抜き出してください。

急峻な山岳と美しい渓谷
幅広い植生
森林生態系が凝縮
動植物の多様性

③ 記事を基に、登録地域に住む人たちの生活の営みをまとめてください。

自然環境を生かした基幹産業を持ち、自然への畏敬の念があり、伝統が継承されている。

祖母・傾・大崩 エコパークに

ユネスコ決定

14日にパリで開かれた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の総会が決定した。「祖母・傾・大崩」は、大分、宮崎両県にまたがる山岳地帯「祖母・傾・大崩」を登録した。群馬、新潟両県の利根川源流域「みなかみ」と共に審査で認められた。大分県内では初めてで、国内の登録は計9地域となった。（19面に関連記事）

14日にパリで開かれた国連教育科学文化機関（ユネスコ）の総会が決定した。「祖母・傾・大崩」は、大分、宮崎両県にまたがる山岳地帯「祖母・傾・大崩」を登録した。群馬、新潟両県の利根川源流域「みなかみ」と共に審査で認められた。大分県内では初めてで、国内の登録は計9地域となった。（19面に関連記事）

対象エリアは急峻な山岳と美しい渓谷が広がる。標高に応じて照葉樹林から夏緑樹林まで幅広い植生があり、日本列島の各地に分布

国連教育科学文化機関（ユネスコ）は14日、自然と人の共生を図る生物圏保存地域「エコパーク」に、大分、宮崎両県にまたがる山岳地帯「祖母・傾・大崩」を登録した。群馬、新潟両県の利根川源流域「みなかみ」と共に審査で認められた。大分県内では初めてで、国内の登録は計9地域となった。（19面に関連記事）

登録、県内で初

祖母・傾・大崩
ユネスコエコパークの対象エリア



エコパーク

ユネスコが認定する「生物圏保存地域」の国内での連綿。環境保で120カ国600地域（2016年3月時点）が登録。国内は南アルプス（山梨）と屋久島（鹿児島）などが認定されている。

環境に配慮して持続可能な発展を目指す「移行地域」、両地域の間を「緩衝地域」で構成する。世界で120カ国600地域（2016年3月時点）が登録。国内は南アルプス（山梨）と屋久島（鹿児島）などが認定されている。